



平成25年5月13日

卓話 『江戸の文明に学ぶこと』

公益財団法人徳川記念財団 理事長
公益財団法人WWF世界自然保護基金ジャパン 会長
徳川宗家十八代当主

徳川 恒孝 様

こんにちは。今日は江戸の文明に学ぶというお話です。

戦国時代から江戸時代への転換が何をもたらしたか。端的に申しますと戦争が終わって平和になったことです。つまり軍事費が民生費へ変わりました。戦(いくさ)をしているときの金のかかり方は、明治に入ってからしか資料がありませんが、平時の明治政府の帝国陸海軍の費用は国家総予算の2割台なのが、日清戦争のときは6割台、日露戦争のときは8割も使われました。戦は家が焼けたり人が死ぬだけでなく猛烈に金がかかる。ですから江戸時代はその前の200年近くの戦争が終わって、ガラッと国が変わったと考えていいと思います。

何をもたらしたかという、治水が進み、新田が開発され、街道がきれいになり、全国共通の貨幣ができた。それで江戸の初期、約1200万であった日本の人口が100年後には3000万まで増えました。市場経済が発達し絢爛たる元禄の文化に到達します。

しかしその後、景気が頭打ちになり人口もあまり伸びなくなりました。なぜかという、それ以上の新田開発は当時の技術では難しいということで田んぼが限界に達し経済発展が止まってしまう。また浅間山の大噴火、諸国の大洪水があり、1707年には富士山の大爆発がありました。さらに巨大津波があって鎌倉から四国まで、多数の方が亡くなるという天変地異が続き、非常に社会が暗くなりました。

そのときに出てきたのが吉宗です。彼は緊縮型の政策に切り替えます。ご自分も木綿しかお召しにならず足袋もはかず、二の膳、三の膳あった

ご飯は一汁三菜に変わります。大変な緊縮財政で江戸も大阪も真っ暗。しかし人間っていつまでもヒヨヒヨしているわけはありません。今まではお金をたくさん使うことが豪気だという風潮から、

いや、そうじゃないというふうになりました。流行ったのが俳句、川柳。一番金のかからない娯楽です。また朝顔づくり、菊づくりも大変なブームになりました。一番徹底したのがリサイクル。捨てるものがない時代になりました。例えば残り布は全部ためておいて、どっかに持って行くと再利用される。トイレの排泄物だって全部、肥料となって近郷の農家に行きます。資源を大切に再利用する形を徹底したのが江戸時代でした。

幕末、来日した外国人が多くの日本訪問記を書いています。皆が一様に驚いているのが、とにかく日本は清潔だということ。道にゴミが落ちていない。人々が清潔で正直で質素であり、街は安全で識字率もヨーロッパが問題にならないほど高い。田畑もよく整備され、子どもたちは天真爛漫で礼儀正しい。これが外国人の見た日本です。

こうして見るといったい幸せの本質は何なのか。今の人はパソコンも冷暖房も新幹線もあるから江戸人よりも幸せかという、必ずしもそうは思えない。家の中が円満で子供がすくすく育つ、こういうサイクルがやはりいろんな方が感じる幸せの大きな部分だろうと思います。

ご静聴ありがとうございました

